

令和5年度

保谷小学校

4年生

地域とともにある学校づくり

コミュニティ・スクールの充実

# 西東京ふるさと探究学習

単元名：「**ふだんのくらしをしあわせに**」  
(活動名)

ねらい：「ふだんのくらしをしあわせに」を合い言葉に、障がいのある人や高齢者と関わる活動を通して、現状で困っていることや周りの人々にしてほしいことなど、その思いや願いに気付いたり、疑似体験をすることによって自分たちの想像以上の苦労があることに気付いたりする。さらに、障がいのある人や高齢者を取り巻く問題を自分の問題としてとらえ、福祉について考えることができるようにする。



## 【盲導犬と視覚障がい者の講演】

・視覚障がいのある方から普段の生活の様子や盲導犬の話などを聞きました。盲導犬によるデモンストレーションや視覚障がいを助ける道具などの紹介をしてもらいました



## 【大塚ろう学校の理解授業】

・副籍交流のある大塚ろう学校の先生より学校生活の様子を聞いたり、手話を教えていただいたりしました。質問にもたくさん答えていただきました。難聴体験をし、聞こえにくさを知りました。



## 【アイマスク体験】

・教室の中で机を触りながら、入り口から出口まで行くという体験をしたり、何も無い校庭を歩いてみたりしました。普段歩いている道も段差があったり、壁があったりすると「怖い」と感じるようでした。



## 【車いす体験・高齢者疑似体験】

・西東京ボランティア・市民活動センターから車いす10台と高齢者疑似体験セットを借りました。体育館にマットやコーンを置き、段差や坂道、でこぼこ道などを想定しました。サポートする児童が乗っている児童にやさしく声をかけながら車いすを押ししていました。



【車いす生活をしている方の講演】

・ 肢体不自由についての説明や車いす生活の話、車いすを使っている人が困っていることなど具体的にお話していただきました。車いすの人に出会った時、自分たちに何ができそうか、考えながら聞くことができました。



【「コミュニティホスピスだんろの家」施設長の講演】

・ 今まで学んできた障がいがある年を取ること自分たちにもおとずれるかもしれないと考え、「高齢者」についてももっと知りたいという思いをもちました。  
地域の高齢者施設の施設長にお話をしていただきました。



【高齢者施設訪問】

・ 地域のグループホームを訪問し、施設を利用されている高齢者の方々と交流しました。児童の素朴な疑問にもたくさん答えてくださいました。児童も高齢者の方々も終始、笑顔でした。別れ際に涙されている方もいて、児童の心を打ちました。また、遊びに来るという約束ができました。



【交流会の計画を立てる】

・ プロジェクトを立ち上げ、「高齢者の方に喜んでもらえる交流会にしよう」と話し合いました。大事な視点を確認し、どんな交流会ができそうかグループで jamboard を使って考えを整理しながらすすめました。その後学級全体で大事な視点を表にして内容を整理分析しました。

## コラム

車いすや高齢者疑似体験セットは地域コーディネーターに運搬していただきました。

第1回交流会は児童が話し合った内容をグループホームいずみのホーム長に伝え、12月に行いました。昔遊び（福笑い・おはじき・かるた・けん玉）や風船バレーをしました。笑顔あふれる交流会となり、児童たちは口々に「また行きたい。」「楽しかった。」と言い合っていて、第2回交流会への意欲をもちました。

今後も身近な地域の中で探究学習を行い、自分たちの住む地域の誰もが「ふだんのくらしをしあわせに」するために児童が「自分ができること」を考えようとする気持ちを大切に、学習していきたいと考えています。